

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校は様々な人々が学びを求めて、一同に集う学校である。このような生徒に寄り添い、個々に応じた教育活動を実践し「入学してよかった」と言われる学校をめざす。

- ①生徒が自分の未来を創造できる学校：基礎学力を身につけ、社会の一員として活躍できる人材を育成する。
②生徒一人ひとりが大切にされる安全で安心な学校：規範意識を育て、互いの違いを認め、周囲への気配りのできる人材を育てる。
③地域・家庭と連携し、協力して生徒を育てる学校：連携を通じて愛される学校をめざす。

2 中期的目標

1. 基礎学力の定着

(1) 「分かる」「楽しい」を実感し、「達成感」を持てる授業づくりと環境づくり

- ア. ICTや1人1台端末、視聴覚教材を取り入れた興味・関心を高める授業を推進し、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざし、生徒に学ぶ喜びを感じさせる。
- イ. 規則正しい学校生活を通して授業規律を確立し、学習環境を整え、安心して学習できるようにする。
- ウ. 生徒の認知能力を把握し、個々に応じた授業内容・教材の工夫をおこない、基礎学力の定着に向け、意欲的に学習活動に取り組む力を育む。
※学校教育自己診断（生徒）で「学校の授業はプリント、スライド、映像等の補助教材も使うなど工夫をしている」の肯定率(R2 85% R3 89% R4 90%)をR7年度には89%を維持する。
※学校教育自己診断（生徒）で「学校の授業中は、落ち着いて学習しやすい。」の肯定率(R2 67% R3 75% R4 77%)をR7年度には80%にする。
※新入生の2年生への進級率(R2 89% R3 81% R4 75%)をR7年度には85%にする。
- (2) 図書館の利用を促進し、漢字をはじめとする言語力や読解力などの確かな学力を育成する。
※生徒一人当たり年間平均利用回数(R2 -回 R3 7.9回 R4 8.0回)をR7年度には7.5回以上を維持する。

2. 自尊感情の育成

(1) 人としての倫理観や規範意識を確立する

- ア. 自己肯定感を高め、他者を理解し、互いを認めることで人間性をともに高めあうように指導する。
- イ. 命の大切さ、善悪の判断等につながる人権教育を推進し、多様性を認め、いじめは重大な人権侵害であることを認識させる。
※学校教育自己診断（生徒）で「命の大切さ、社会のルール、人権の大切さについて考える機会がある。」の肯定率(R2 83% R3 87% R4 86%)をR7年度には87%を維持する。

(2) コミュニケーション能力の向上

- ア. 社会を構成する一員として挨拶のできる生徒を育て、積極的な社会参加をはかる。
- イ. 学校行事に自主的、積極的に参加できる環境をつくり、人と関わる喜びを体験させる。
- ウ. 体育祭、文化祭等の行事において保護者、地域、中学校教員と連携、交流することでいろいろな人とコミュニケーションを取ることができる力を育む。
※学校教育自己診断（生徒）で「自分はいさつをしている。」の肯定率(R2 71% R3 72% R4 75%)をR7年度には77%にする。
※学校教育自己診断（生徒）で「体育祭、文化祭などの学校行事は、楽しい。」の肯定率(R2 72% R3 74% R4 81%)をR7年度には80%を維持する。

(3) 家庭、中学校、地域との連携強化

- ア. 必要な情報を速やかに発信し情報共有を密にして学校、家庭、中学校、地域が一体となり教育活動を進めることで、さまざまな視点を持って生徒を成長させる。
- イ. ボランティア活動に参加させることで地域との結びつきを考えさせ、社会貢献活動の意義を理解させる。
※学校教育自己診断（保護者）で「学校は、家庭への連絡や意思疎通を行っている。」の肯定率(R2 93% R3 83% R4 78%)をR7年度には85%にする。

(4) 課題を抱える生徒への支援体制の充実

- ア. フォローアップコーディネーター、生徒支援委員会を中心として個々のニーズを把握することで効果的な指導、支援をし、安全、安心に学校生活を送ることができるようにする。
※学校教育自己診断（生徒）で「学校には、話を聞いてくれたり、気軽に相談できる先生がいる。」の肯定率(R2 70% R3 81% R4 79%)をR7年度には83%にする。
※中退率(R2 4.2% R3 5.3% R4 9.0%)をR7年度には7%以下を維持する。

3. キャリア教育の充実

(1) 生徒が自らの将来設計について考え、踏み出すことができるよう、進路指導の充実をはかる。

- ア. 進路に関する十分な情報を生徒へ提供するとともに、保護者との連絡を密にし、学校・家庭が協調して指導にあたる。
- イ. ガイダンス機能の充実をはかり、1年次より継続的に個々のニーズに応じた進路指導を行う。
- ウ. 就職希望者には就労体験・応募前職場見学を勧め、進学希望者には志望校への進学実現に向けた準備、プランニング等の情報を提供し、目標に向けて粘り強く挑戦・努力する力を育成し、希望進路実現率を向上させる。
※学校教育自己診断（生徒）で「学校は、就職や進学についての情報を十分に知らせてくれる。」の肯定率(R2 84% R3 82% R4 83%)をR7年度には85%にする。
※学校教育自己診断（生徒）で「進路指導に関する問No.15・16」の肯定率(R2 82% R3 82% R4 83%)をR7年度には85%にする。
※卒業生の希望進路実現率(R2 64% R3 64% R4 80.8%)をR7年度には70%以上を維持する。

4. 学校力の向上

(1) 教員力の向上

- ア. 授業見学、研究授業等により、授業力向上に取り組む。
- イ. 首席を中心に、経験年数の少ない教員やミドルリーダーの育成に取り組む。
※学校教育自己診断（生徒）で「学校の授業の説明は、わかりやすい。」の肯定率(R2 79% R3 84% R4 86%)をR7年度には86%を維持する。

(2) 職務の効率化

府立寝屋川高等学校 定時制の課程

ア. 全校一斉定時退庁日、学校閉庁日等を有効活用し、教職員一人ひとりが意識して時間外労働の縮減と健康管理に努める。

イ. 校内LAN（掲示板）を活用して効率よく情報共有する。

※1人あたりの時間外在校等時間（新システム）を月平均15時間以下とする。

※年次有給休暇を5日以上取得する職員を100%とする。

(3) コンプライアンス意識の向上

ア. 不祥事の防止、個人情報の管理、職場のハラスメントの防止等について、未然防止のために職員研修を年1回以上実施し、徹底をはかる。

イ. セキュリティポリシーの徹底をはかり、個人情報管理体制を強化する。

(4) 危機管理体制及び保健・安全・衛生管理の徹底

ア. 避難訓練の予定がある週を「防災防犯週間」とし、授業をはじめ、さまざまな場面で生徒の防災意識を高めさせ、実践的な避難訓練を実施するなど、防災防犯体制の充実をはかることで、生徒・教職員の身の安全を確保する。

イ. 保健・安全・衛生面での情報をタイムリーに生徒に周知し、感染症やアレルギー等への予防安全を徹底し、事故等の発生を抑制する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【基礎学力の定着】 生徒の授業に関する4項目は肯定回答の平均が [83.3%] ⇒89.8%と上昇している。 ・授業はプリント、ICT、映像等を使い工夫している [90%] ⇒91% ・授業の内容に、ついていける [80%] ⇒91% ・授業は、わかりやすい [86%] ⇒92% ・授業中は、落ち着いていて学習しやすい [77%] ⇒85% また保護者の授業に関する2項目の肯定回答の平均も [71.0%] ⇒88.5%と増加している。 授業見学の機会を増やし、授業改善に取り組むなか、観点別評価の実施でさらに授業の質が充実した。ICT機器の活用も増え、生徒が理解しやすくなり、加えて授業中の個別対応を増やした結果が表れた。</p> <p>【自尊感情の育成】 生徒の自尊感情の育成としての指標である4項目は肯定回答の平均が [80.3%] ⇒87.3%と増加した。 ・命の大切さ、社会のルール、人権の大切さについて考える機会がある。 [86%] ⇒93% ・自分はいさつをしている。 [75%] ⇒87% ・体育祭、文化祭などの学校行事は、楽しい。 [81%] ⇒88% ・話を聞いてくれたり、気軽に相談できる先生がいる。 [79%] ⇒81% 人権HRをはじめ様々に機会をとらえて生徒に話し、生徒の声を聴き、粘り強く寄り添っていく指導の効果がでてきている。あいさつについては、登校時校門での積極的な声かけに応える形であいさつを返す生徒が増えている。学校行事についても生徒会執行部が自主的活動を支え、多くの生徒が充実感を味わったと思われる。どんなことでも気軽に相談できる体制が、生徒の自尊感情の育成に寄与している。 保護者の同項目（4項目）の肯定回答の平均も [74.5%] ⇒79.3%と増加した。生徒を通じて学校としての取り組みが伝わり、教職員からのきめ細かな連絡やHP、配布物など丁寧に情報を伝えた成果である。</p> <p>【キャリア教育の充実】 生徒のキャリア教育に関する5項目は肯定回答の平均が [80.0%] ⇒83.4%と上昇し、保護者でも同様の3項目の肯定回答の平均が [76.7%] ⇒80.0%と上昇した。応募前職場見学の生徒への聞き取りをより丁寧に行ったり、入試対策として進学ゼミの回数を増やしたり、個別指導の充実を図ったことで効果が高まり、家庭との連携がうまくできたことも一因である。</p>	<p>【第1回6/28】 <学校経営計画全般についての意見> ・SNSの使い方について、報道されるような事案が起きないように、予防教育をしてあげてほしい。 →情報モラルについての予防教育、指導を教科でおこない、差別事象が発生しないよう全教員で見守る。2(1)(1)イ差別事象0件 ・生徒の様子の変化に気付いてあげてほしい。 →生徒の居場所となり、教員との人間関係を構築する取り組みを実施する。2(4)(4)ア中退率1.8%(1月末現在) ・日本語指導が必要な生徒を含め、様々な支援が必要だと思うが、先生方の働き方改革は進めていただきたい。 →日本語指導の体制を整え、標準カリキュラムを作成。日本語指導新設アンケート肯定率95% →働き方改革と職務の効率化4(2)(2)時間外在校等時間指標達成、年次有給休暇指標達成</p> <p>【第2回11/28】 <授業改善についての意見> ・授業のめあてを提示しておく、ポイントを押さえやすくなり有効なので実践してほしい。 →現在、試行中R6年度より導入。 ・小中学校で1人1台端末の活用が本格化しているのが高校でも更に活性化させてほしい。 →1人1台端末の利活用を推し進めるため、前期の「総合的な探求の時間」を活用して、全学年で全10回のタブレット活用講座を開催した。後期には、探求的な学びの成果発表を行った。「総合的な探求の時間」プロジェクトチームを立ち上げて取り組み、R6年度も継続発展する。 <授業見学の意見> ・「公共」は、政治について学んでいて、生活に密接していて良かった。 ・「体育」はしっかり体を動かしていて、楽しそうで良かった。 ・「数学」分かりやすく説明しているのが良かった。 <授業アンケートについての意見> ・数字の上がり下がりによりあまり一喜一憂せず、邁進してほしい。</p> <p>【第3回2/21】 <議事> ・学校教育自己診断・学校評価アンケートの結果報告と分析報告 ・令和5年度分掌チャレンジ最終報告 ・授業アンケート（12月実施）の結果について ・令和5年度 学校経営計画及び自己評価（案）について ・令和6年度 学校経営計画及び自己評価（案）について ・学校感染症の状況報告 <意見> 学校評価アンケート結果、分掌チャレンジ最終報告の結果をみて、防災についての生徒のポイントが高く、意識が高まっていて良い。生徒1人ひとりの防災意識を高めていただきたい。 ・18歳成人という時代になり、カードローンや各種契約について消費者教育を充実させていただきたい。 ・履歴書指導でトレースボードを活用するなど、進路指導を効率よく行っている。それぞれの良さを生かした進路決定を支援していただきたい。 ・教員の働き方改革をこのまま進めていただきたい。 <第2回授業アンケート結果について> ・各項目で今年度7月、前年度12月と比較しても高い数値となっていて、学校としての取り組みが成功していると感じる。 ・授業が分かりやすいという評価をしている。このまま授業改善を続けてほしい。 <令和6年度学校経営計画及び自己評価（案）について> ・今年度提言した内容を盛り込んでくれていることを評価する。</p>

府立寝屋川高等学校 定時制の課程

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 基礎学力の定着	<p>(1)「分かる」「楽しい」を実感し、「達成感」を持てる授業づくりと環境づくり</p> <p>(2) 図書館の利用を促進する</p>	<p>(1)</p> <p>ア・ICTや1人1台端末、視聴覚教材を取り入れ、わかりやすい授業を実施する。</p> <p>・1人1台端末の有効活用、授業展開の工夫により、生徒が積極的に参加し「主体的・対話的で深い学び」のある授業を実施する</p> <p>イ・あいさつ運動、巡回指導、携帯指導を継続する。</p> <p>・教員が授業中の生徒の現状に満足せず、あきらめず、中抜け、無断早退防止の指導を継続し、授業規律を確立する。</p> <p>・生徒が授業に集中できる環境づくりを進める。</p> <p>ウ・1年生に対して入学時、コグトレを活用した本校独自の認知能力測定テストを実施し、認知能力の把握を行う。</p> <p>・毎日1度は授業の最初に「コグトレ」を実施する。1年間継続して実施することにより、認知能力の向上をはかる。</p> <p>・年度末に、再度コグトレを活用した本校独自の認知能力測定テストを実施し、1年間の認知能力の向上を検証する。</p> <p>・生徒の特性を理解したうえで、個々の能力に応じて授業内容を工夫し、基礎学力の定着をはかる。</p> <p>(2)</p> <p>・通常の利用に加え、授業などでも図書館の活用を促進し、本に触れる機会を増やす。</p>	<p>ア・学校教育自己診断（生徒）で「学校の授業はICTや映像、プリントを使うなど工夫をしている」の肯定率89%以上を維持する。 [90%]</p> <p>・授業アンケート「授業に、興味・関心を持つことができたと感じている。」の学校平均3.30以上を維持。 [3.36]</p> <p>イ・学校教育自己診断（生徒）で「学校の授業中は、落ち着いて学習しやすい。」の肯定率を80%以上にする。 [77%]</p> <p>・授業アンケート「先生は授業中してはいけないことをしている生徒に対し注意をしている。」の学校平均3.50以上を維持する。 [3.58]</p> <p>・早退者数300件以下を維持する。 [213]</p> <p>ウ・コグトレを活用した本校独自の認知能力測定テストの結果に基づいて、検討会を2回行い、更なる有効活用をはかる。</p> <p>・新入生の2年生への進級率を80%以上にする。 [75%]</p> <p>・図書館の生徒一人当たり平均利用回数7.0回以上を維持する。 [8.0回]</p>	<p>ア・肯定率91% ○ 研修や情報の共有などにより、教員がICT機器を日常的、効果的に使用している状態になっており、肯定的回答がさらに増加したと考えられる。</p> <p>・「授業に、興味・関心を持つことができたと感じている。」の学校平均3.43 ◎ 「授業の内容についていける91%」「授業はわかりやすい92%」の状況が達成されているため興味・関心を持つことができる。</p> <p>イ・肯定率85% ◎ 教職員の指導と協力によって、落ちついた授業雰囲気を作り出せている。</p> <p>・学校平均3.65 ◎ 高い数値で達成できているが、注意しなければならない状況もあるため、生徒指導部を中心に巡回当番等との連携も含め、今後も粘り強く指導していく。</p> <p>・12月末[278] ○ コロナ5類移行により出席停止ではなく早退とカウントされる回数が増加。</p> <p>ウ・毎日1度は授業の最初に「コグトレ」を実施した。認知能力測定テストの結果について検討会2回目を開催した。</p> <p>・進級率88% ◎</p> <p>・図書室の利用者数は12月まで延べ799名で前年比104%となっている。4.9回 △</p>
2 自尊感情の育成	<p>(1) 人としての倫理観や規範意識を高める</p> <p>(2) コミュニケーション力の向上</p>	<p>(1)</p> <p>ア、イ</p> <p>・全教員が授業、学校行事等において日常的に指導を続ける。また、外部人材を積極的に活用する。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症、情報モラルなどにおいて差別事象が発生しないよう全教員で生徒を観察し、指導する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・あいさつ運動を継続して実施する。社会を構成する一員として、あいさつを返すだけでなく、自分から積極的にあいさつすることの意義をHRや集会等においても指導する。</p> <p>イ・生徒会が中心となって行事の企画運営を行い、自主的、積極的に参加できる環境をつくる。</p> <p>・HRなどで行事にみんなで参加することの楽しさを伝え、参加したいと思う雰囲気をつくる。</p>	<p>ア、イ</p> <p>・学校教育自己診断（生徒）で「命の大切さ、社会のルール、人権の大切さについて考える機会がある。」の肯定率を維持する。 [86%]</p> <p>・差別事象0を維持する。 [0件]</p> <p>ア・学校教育自己診断（生徒）で「自分はあいさつをしている。」の肯定率75%を維持する。 [75%]</p> <p>イ・学校教育自己診断（生徒）で「体育祭、文化祭などの学校行事は、楽しい。」の肯定率80%以上を維持する。 [81%]</p> <p>・行事の参加率62%以上を維持する。 [体育祭、文化祭の平均65.1%]</p>	<p>ア、イ</p> <p>・肯定率93% ◎ 10月の人権講演会で講師の先生が、生徒の心をつかむお話をされた。来年度も生徒の実態に応じた講演会を計画実施する。</p> <p>・担任が人権HRを丁寧に行った。</p> <p>・差別事象0件 ○</p> <p>ア・肯定率87% ◎ 生徒の登校時には、多くの教員が門に立ち、挨拶と声かけを行い、生徒が自ら挨拶をしやす環境づくりができた。</p> <p>イ・肯定率88% ◎ どの生徒会行事においても、担当教員と生徒会役員が本番に向け入念な準備を行ったため、当日は進行がスムーズに行われ、参加した生徒の肯定率も高いものになっている。</p> <p>・行事の参加率:体育祭(71.3%)、文化祭(68.7%)平均70% ◎ 生徒会役員が中心となって運営し生徒たちが主体的に参加、活躍することができた。</p>

府立寝屋川高等学校 定時制の課程

	<p>(3) 家庭、中学校、地域との連携強化</p> <p>(3)</p> <p>ア・メール、HP を活用し、新型コロナウイルスに関することなど緊急性のある情報に加えて、日々の学校の様子などを積極的に発信し、保護者への情報伝達を迅速かつ丁寧に行う。</p> <p>・学校説明会を2回実施、また中学校訪問をするなどして保護者、地域、中学校教員へ開かれた学校づくりをめざす。</p> <p>・保護者への連絡の徹底と地域、中学校への情報発信 (HP や外部での説明会) を活発にする。</p> <p>イ・ボランティア清掃を年間2回以上実施する。</p> <p>ウ・地域に向けた公開講座を実施し、地域との交流をはかる。</p> <p>(4) 課題を抱える生徒への支援体制の充実</p> <p>(4)</p> <p>ア・フォローアップコーディネーターを中心に SC、SSW と密接に連携を取りながら生徒支援委員会が中心となって活動する。情報は全教員で共有することにより、一貫性のある指導を実施する。</p> <p>・生徒の居場所となり、教員との人間関係を構築する取り組みを実施する。</p>	<p>ア・学校教育自己診断 (保護者) で「学校は、家庭への連絡を行っている。」の肯定率を80%以上にする。[78%]</p> <p>・本校開催行事 (学校説明会、体育祭、文化祭など) への来場者数を150人以上にする。</p> <p>・HP を年50回以上更新する。 [新設]</p> <p>イ・1回当たりの参加者を30名以上にする。 [23名]</p> <p>ウ・年1回以上実施する。 [新設]</p> <p>ア・学校教育自己診断 (生徒) で「学校には、話を聞いてくれたり、気軽に相談できる先生がいる。」の肯定率を80%以上にする。 [79%]</p> <p>・中退率7%以下を維持する。 [9.0%]</p>	<p>ア・肯定率84% ◎</p> <p>細やかに丁寧にその都度、家庭への連絡を行った。</p> <p>・学校説明会48名、体育祭81名、文化祭78名のべ参加人数:207名 ◎</p> <p>学校説明会参加人数が増えた一因として秋に近隣中学校への訪問が挙げられる。次年度も実施する。</p> <p>・68回更新 1/22 現在 ◎</p> <p>イ・ボランティア清掃を4回実施 (5/26、7/14、10/6、12/15) 教員からの積極的な声かけもあり、合計168名が参加。1回あたりの参加平均人数も42名と大幅に増加した。◎</p> <p>ウ・守口市立さつき学園へ出前講座12/11 英数国の模擬授業と定時制高校の説明を行った。</p> <p>ア・肯定率81% ○</p> <p>担任はもちろん、学年付教員、授業担当者、顧問、養護教諭など、多くの教員が生徒に関わり、生徒と話すことを大切にしている。</p> <p>・中退率3.7% (3月末現在) ◎</p>
3 キャリア教育の充実	<p>(1) 生徒が自らの将来設計について考え、踏み出すことができるよう、進路指導の充実をはかる。</p> <p>(1)</p> <p>ア・生徒・保護者の進路に関する理解を深めるため進路保健部と担任団が一体となり、説明会実施、進路だよりの発行などの情報提供を行う。</p> <p>イ・1年次より進路の手引き (ロードマップ) を活用し、系統立てた進路HRを実施し、進路選択について考える機会を設ける。</p> <p>ウ・就労体験、応募前職場見学を実施し、就職希望者の進路選択の機会を増やす。また進学希望者には実現に向けた情報を提供し、粘り強く指導する。</p>	<p>ア・学校教育自己診断 (生徒) で「学校は、就職や進学についての情報を十分に知らせてくれる。」の肯定率を85%以上とする。 [83%]</p> <p>イ・学校教育自己診断 (生徒) で進路指導に関する設問「将来について考える機会がある」「進路情報を伝えてくれる」の肯定率を84%以上とする。 [82%]</p> <p>ウ・卒業生の希望進路実現率64%以上を維持する。 [80.8%]</p>	<p>ア・肯定率89% ◎</p> <p>「進路通信」を年間4回の発行。各種進路に関するパンフや冊子の設置配布をはじめ、配付物の教室掲示を増やした。</p> <p>イ・「将来について考える機会がある」肯定率80%「進路情報を伝えてくれる」の肯定率89% 平均84.5% ○</p> <p>進路HRに対して生徒の実感は、もう少し先のことと捉えており、下級生のうちから自分事として捉えられる工夫が必要。</p> <p>ウ・卒業生の希望進路実現率61.1.%△</p>
4 学校力の向上	<p>(1) 教員力の向上</p> <p>(1)</p> <p>ア・相互の授業見学、本校全日制の授業見学や研究授業を実施し、全教員で授業力向上に取り組む。</p> <p>(2) 職務の効率化</p> <p>(2)</p> <p>ア・会議の開催を最小限にし、時間短縮、ペーパーレス化を促進、校内LAN (掲示板) を活用することで、職務の効率化をはかり、時間外勤務を減らす。また年次有給休暇を計画的に取得するようにする。</p>	<p>ア・本校全日制や他の定時制高校の授業見学を促進し、参加率50%以上をめざす。 [48%]</p> <p>・授業公開月間を前期と後期の2回設け、校内で互いに授業見学を行う。その際、観点別評価を反映した「授業見学シート」を作成して授業の工夫を共有する。 [新設]</p> <p>・学校教育自己診断 (生徒) で「学校の授業の説明は、わかりやすい。」の肯定率85%を維持する。 [86%]</p> <p>・授業アンケート「先生は、わかりやすく説明してくれる」の学校平均3.55以上を維持する。 [3.62]</p> <p>ア・1人あたりの時間外在校等時間 (新システム) を月平均15時間以下とする。 [新設]</p> <p>・年次有給休暇を5日以上取得する職員を100%とする。 [新設]</p>	<p>ア・参加率54%○</p> <p>授業見学週間を年に2回設定し、役割等で空き時間のない中、13回の授業見学が行われた。1月には全日制への授業見学を実施。</p> <p>・6月と11月に授業公開月間を設けた。フォーム作成ツールで「授業見学シート」を記入し共有して授業改善に役立てた。この取り組みも相まって、学校教育自己診断で生徒の授業に関する4項目の肯定回答の平均が6.5%と上昇し89.8%となった。◎</p> <p>・肯定率92% ◎</p> <p>授業改善に向けた授業担当者の取り組みが、実感として生徒に伝わっている。加えて今年度は授業内に複数の教員、あるいは学習支援員が配置されている講座が多かったため、より細かい指導が行き届いたと考えられる。</p> <p>・学校平均3.64 ◎</p> <p>各授業担当者が生徒との信頼関係を築き、生徒に授業を理解させ、わかる喜びを伝え、より自信を持たせて生徒の向上心を高めている。</p> <p>ア・達成 ○</p> <p>・年休を取りやすい職場の雰囲気づくりを意識し、年休を年間で5日以上、全員が取得達成した。○</p>

府立寝屋川高等学校 定時制の課程

<p>(3) コンプライアンス意識の向上</p> <p>(4) 危機管理体制及び保健・安全・衛生管理の徹底</p>	<p>(3)</p> <p>ア・職員会議等において不祥事の防止、個人情報の管理、職場のハラスメントの防止について、徹底をはかる。</p> <p>・セキュリティーポリシーの徹底をはかり、個人情報の管理体制を強化する。</p> <p>(4)</p> <p>ア・非常変災に備えて校内体制を整備し、防災計画等のマニュアルを作成し、日頃から連絡方法や配備体制について全教員に周知する。</p> <p>・職員研修を開催する。</p> <p>・生徒に自らの命を守ることを意識させた実践的な避難訓練を実施する。</p>	<p>ア・職員研修を年1回以上実施する。 [新設]</p> <p>ア・職員研修を年1回以上実施し、周知できたか。</p> <p>・学校教育自己診断(生徒)「地震や火災が起こった時、どのような行動をすればよいか知らされている。」の肯定率85%以上を維持する。 [87%]</p>	<p>・職員研修はコンプライアンス研修 11/30 の他に、SC 研修 1/16、SSW 研修 (⇒SSW ニュースの発行に変更し生徒向け、先生向け各3回発行) を実施した。○</p> <p>ア・職員研修 ○ 救急救命 8/28 災害時職員研修 12/22</p> <p>・「地震や火災が起こった時、どのような行動をすればよいか知らされている。」の肯定率 97% ◎</p>
---	---	--	---